

科目名	エアラインサービスマナー I B									
科目名(英)	Airline Service Manner I B									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森永/宮崎					
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	国内航空会社国際線客室乗務員/ 国内航空会社国際線					
対象学科・学年	エアライン科1年									
授業概要	本講座では、航空業界で求められる身だしなみ・表情等の基本動作に加え、専門知識、語学力、一般教養力、コミュニケーション能力等を身につける。また、おもてなしの心を育み、高齢化社会や時代に合わせたきめ細やかなサービスを実現する。接客マナースキルコンテストではGSのロールプレイをしながら、言葉遣いや礼儀作法、介助サービスの習得を図る。									
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
			○			接客基本動作、接客に必要な対応能力を使い、空港での接客時に用いる敬語や言い回しを覚え、実際にお客様と会話することができる。				
			○			航空業界用語、専門的知識を学び、接客マナーコンテストで実践的な対応をすることができる。				
	○	○	○			接客マナースキルコンテストでは、基本動作に加え、表情・声のトーンなど意識しながら対応することができる				
テキスト・教材 参考図書	接客マナースキルコンテスト(プリント使用)									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	接客マナースキルコンテストについての概要				接客サービスマナーコンテスト用のプリントをよく読んでおくこと				
	2	GS基本動作1				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	3	GS基本動作2				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	4	GS基本動作3				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	5	GS基本動作4				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	6	GS基本動作5				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	7	接客マナースキルコンテスト 事例1~4について				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	8	接客マナースキルコンテスト 事例1~4について				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	9	接客マナースキルコンテスト 事例1~4について				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	10	接客マナースキルコンテスト 事例1~4について				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	11	接客マナースキルコンテスト 事例1~4について				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	12	接客マナースキルコンテスト 事例1~4について				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	13	接客マナースキルコンテスト 事例1~4について				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
	14	接客マナースキルコンテスト 事例1~4について				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと				
15	事例のテスト(ロールプレイングテスト)				事例を把握し、言葉遣いや説明等の対応ができるように何度もシュミレーションをしておくこと					
評価方法	(1)授業の中で実技試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	実技テスト	○	○	○	○		100%			
履修上の注意										

科目名	自己表現						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森永 久美子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	航空会社にて客室乗務員として勤務		
対象学科・学年	エアライン科 1年						
授業概要	<p>社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につけ、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。</p> <p>①就職活動に必要な書類(履歴書・ES)作成 ②求職票受付面接の指導・面接のための自己分析 ③航空業界の採用情報、企業が求める人材・資質について学ぶ ④企業研究・業界研究を徹底する</p>						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		理解職業を理解し、行動に移せることできる	
	○			○		考える力を身につけ、伝える力を身につける	
	○					好感もてる表情や口調で伝える	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(自己表現の受け方)				テーマに沿って準備をする	
	2	職業理解①				テーマに沿って準備をする	
	3	職業理解②				テーマに沿って準備をする	
	4	職業理解③				テーマに沿って準備をする	
	5	求職面接指導				テーマに沿って準備をする	
	6	求職受付面接指導ESの作成				テーマに沿って準備をする	
	7	求職受付面接指導ESの作成				テーマに沿って準備をする	
	8	自己PR				テーマに沿って準備をする	
	9	志望動機				テーマに沿って準備をする	
	10	求職面接指導				テーマに沿って準備をする	
	11	求職面接指導				テーマに沿って準備をする	
	12	求職面接指導				テーマに沿って準備をする	
	13	求職面接指導				テーマに沿って準備をする	
	14	求職面接指導				テーマに沿って準備をする	
15	まとめ				テーマに沿って準備をする		
評価方法	(1)提出物は各期限を設定する (2)ホームワークを数回実施する (3)自習・行事を数回実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		50%
履修上の注意							

科目名	AMADEUS I					
科目名(英)	AMADEUS I					
単位数	2単位	時間数	40時間	担当者	平田かおり	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	国際線グランドスタッフとして勤務	
対象学科・学年	エアライン科1年					
授業概要	世界トップシェアを誇るAMADEUSシステムで航空券の予約取得について学び、アマデウスシステム検定 Specialist(初級)の合格を目指す。検定対策を通して、航空業界で使用する専門用語(空港コードや機材名、SSRコード等)を覚え、予約取得時や搭乗手続き時に、どのような確認・操作が必要になるのかを学んでいく。また、実際の現場において、授業で学んだ内容がどのように活用されるのかを、ケーススタディーを通して確認していく。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				基本用語(空港・航空会社コード)を覚え、端末操作時には検索せずに予約を取得できる。
		○				各画面の記載事項を読みとり、検定問題に正しく解答することができる。
		○				入力エンTRIESを習得し、一連の予約操作を1人で行うことができる。
		○	○			60分以内に検定問題を正しく解くことができる。
	○				Specialist(初級)に合格することができる。	
テキスト・教材 参考図書	アマデウスユーザーガイド(予約)、クイックガイド(早見表)、オリジナルプリント					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	授業概要・シラバス・検定について、サインイン・サインアウト			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	2	情報検索①(各種コード検索、都市・空港・国コード)			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	3	情報検索②(各種コード検索、航空会社・機材コード)			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	4	情報検索問題演習、ヘボン式ローマ字、タイムテーブル			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	5	情報検索まとめテスト、PNRとは			授業の復習とまとめテストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	6	空席照会、ダイレクトアクセス			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	7	PNR作成演習①(基本PNR作成、PNRの再表示、PNR中断)			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	8	PNR作成演習②(PNRの取り出し、乗継PNR、その他の基本エンTRIES)			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	9	PNR作成まとめテスト①(基本PNR)、PNR作成演習③(小児PNRの作成)			授業の復習とまとめテストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	10	PNR作成演習④(幼児PNRの作成)			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	11	PNRのキャンセル・修正・変更			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	12	PNR作成まとめテスト②(小児・幼児PNR)			授業の復習とまとめテストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	13	SSR・OSI入力(MEAL・FFP・SEAT)			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	14	検定模擬試験①、採点と解説			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	15	検定模擬試験②、採点と解説			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	16	検定模擬試験③、採点と解説			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	17	検定模擬試験④、採点と解説			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	18	検定模擬試験⑤、採点と解説			授業の復習と小テストの勉強をしておくこと。(1時間)	
	19	定期試験			これまでの復習をしっかりと行い臨むこと。(1時間)	
20	検定対策、受験時の注意事項					

評価方法	(1)定期試験を実施する (2)課題を数回実施する (3)授業内で小テストを数回実施する (4)検定を受験する以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○		○		70%
	課題、小テスト	○			◎		20%
	検定取得状況	◎	○		○		10%
履修上の注意	テキスト・授業の内容を自身でノートにまとめ、オリジナルの早見表を作成すること。						

科目名	空港インターンシップ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	40時間	担当者	宮崎 みゆき		
実施年度	2022年度	実施時期	別途調整	担当者実務経験	国際線グランドスタッフとして勤務		
対象学科・学年	エアライン科1年						
授業概要	学内で3回、実習先で1回の事前研修を実施し、インターンシップに必要な基礎知識(専門用語や敬語、社会人としてのマナーなど)を学ぶ。その後、空港における地上職(グランドスタッフ)の就業体験を通して、実践的スキルを習得する。						
授業形式	講義: △	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					空港での接客時に用いる敬語や言い回しを覚え、実際にお客様と会話することができる。	
	○					航空業界用語について学び、実習中にそれらを用いて社員とコミュニケーションをとることができる。	
				○		就業規則を遵守し、社会人として、また空港職員として適切な行動をとることができる。	
		○				個人情報や社外秘の取り扱いについて理解し、各企業のルールに沿って業務できる。	
	○					自ら仕事を見つけ、社員に対して発案して実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント、各企業からの配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	エアラインゼミ(実習前研修)① 身だしなみ確認、シフト作成、専門用語の確認、履歴書提出				プリントを事前に読んでおくこと。 (0.5時間)	
	2	エアラインゼミ(実習前研修)② 入社時のマナー、緊急時の連絡方法、貸与物の管理				プリントを事前に読んでおくこと。 (0.5時間)	
	3	エアラインゼミ(実習前研修)③ 実習先企業でのオリエンテーション				プリントを事前に読んでおくこと。 (0.5時間)	
	4	エアラインゼミ(実習前研修)④ 確認テスト、接客ロールプレイ、実習における目標設定				プリントを事前に読んでおくこと。 (0.5時間)	
	5~	各企業でのインターンシップ				シフト表を確認し、業務内容を把握しておくこと。	
評価方法	(1)事前研修最終日に2レター・3レター・用語の確認テストを実施する。 (2)月に15~20日程度出勤をし、お客様のご案内やオフィス内業務を行う。 評価は合格「R」か不合格「D」のいずれかとなる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	業務状況・報告書提出				◎		100%
履修上の注意	第4回のエアラインゼミにおいて最終確認(身だしなみ、用語)をし、実習に参加できるかどうかの可否判断を行う。						

科目名	キャビンアテンダント業務Ⅰ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	未定		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科1年生						
授業概要	キャビンアテンダント(以下CA)を目指す学生を対象に開講する。国内線CAの日常業務を理解し、知識を習得する。CAの業務には大きく、保安業務とサービス業務がある。とかくサービス業務がクローズアップされがちだが、CAは保安要員としての役割と自覚が非常に重要である。保安要員としての役割も正確に理解し、知識の習得だけに留まらず、同時に責任ある行動、発言、正義感を育成していくことも目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			清潔感のある身嗜み(ヘアメイク・スーツの着こなし)を保つことができる。	
		○				CA業務の基本知識を説明することができる。	
			○			ドリンクサービス業務を正確に行うことができる。	
		○	○			保安優先の行動ができる。	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業の心構え・CA業務の基礎知識の理解			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	2	CA業務の一連の流れの理解(国内線)			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	3	立居振舞いの練習と実践練習			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	4	美しい接客用語の習得と実践練習			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	5	顧客心理(一般のお客様の心理を知る)			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	6	顧客心理(VIP・多頻度旅客の心理を知る)			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	7	ドリンクサービス(基本動作)			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	8	ドリンクサービス(事例あり)			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	9	ドリンクサービス(事例あり)			習得した知識や動きを復習すること 実技試験まで練習に励むこと(0.5時間)		
	10	機内アナウンスの基本知識(意義・品質・技術)の習得と実践練習			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	11	保安業務の理解(日常業務の保安業務)			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	12	安全性チェックの理解と実践練習			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	13	安全性チェック(事例あり)			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	14	火災・急減圧・急病人発生・機内準備			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
	15	実技試験(ドリンクサービス)			習得した知識や動きを復習すること(0.5時間)		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 機内ドリンクサービスの実技試験を授業最終日に行う (チェック項目:第一印象・身嗜み・メイク・所作・基本動作・笑顔・親しみやすさ・手際の良さ) ※笑顔・親しみやすさ・手際の良さに関しては、実フライトでの判断基準を参考にする 数回レポート課題を出す 						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技試験		○	◎			90%
	提出物	○	◎		○		10%
履修上の注意							

科目名	グランドスタッフ業務 I						
科目名(英)	Ground Staff Course I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平田かおり		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	国際線GSとして勤務		
対象学科・学年	エアライン科1年						
授業概要	グランドスタッフの職種理解を深め、専門性を身に付ける。航空業界の現場で必要とされる知識を習得し実技を通して接客の技術を磨くことにより、即戦力として活躍できる人材を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				航空業界、グランドスタッフに必要な専門用語を理解し、使用することができる。	
	○	○				グランドスタッフの業務の流れを理解し、それぞれの役割について説明できる。	
				○		正しい言葉遣いやお客様への対応力を身に付け、授業内のロールプレイで実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	ANAグランドスタッフ入門、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	GSの仕事とは・目標設定			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間)		
	2	接客に必要な心構え・言葉遣い			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間)		
	3	国内線と国際線の違い			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間)		
	4	出発業務 (カウンター、搭乗口)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間)		
	5	チェックインロールプレイ①			敬語の復習をしておくこと(0.5時間)		
	6	チェックインロールプレイ②			ロールプレイの復習をしておくこと(0.5時間)		
	7	到着業務			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間)		
	8	手荷物事故			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間)		
	9	特別旅客			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間)		
	10	多頻度旅客			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間)		
	11	チェックインロールプレイ③			ロールプレイの復習をしておくこと(0.5時間)		
	12	チェックインロールプレイ④			ロールプレイの復習をしておくこと(0.5時間)		
	13	空港アナウンス			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間)		
	14	ロードコントロール業務			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと(0.5時間)		
	15	期末試験(筆記)			授業の内容をしっかりと復習して臨むこと(0.5時間)		
評価方法	(1)授業の中で実技試験を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	○				50%
	実技試験		◎	◎	○		50%
履修上の注意							

科目名	英語検定対策(TOEIC) I B					
科目名(英)	TOEIC Test Strategies I B					
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	和田 菜穂	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	外資系航空会社にて客室乗務員として勤務	
対象学科・学年	エアライン科1年					
授業概要	国際国際化が進む社会の専門性として、日常英会話にとどまらず、より専門的な分野で通用する高いレベルの情報処理能力を念頭に業務を行うことが求められている。限られた時間の中で正確、かつ迅速に対応し、社会で必要とされる英語力に見合った力をつけることが重要である。この授業では、英語運用能力を測る代表的な資格であるBレベルTOEIC730点以上スコア取得を目指し、問題演習を通して英語の4技能を伸ばしていく。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				社会性のある内容の文章を理解することができる。(読む) ・自分の仕事に関連した日常業務のやりかたについての説明を理解できる。 ・商談を始める前のアイスブレイキングで用いられる一般的な話題(天候、最近の出来事等)について、理解することができる。
	○	○				社会性のある内容を聞いて理解することができる。(聞く) ・留守電のメッセージを聞き、相手の用件や電話番号等が聞き取れる。 ・電話がかかってきた際に相手の名前を聞き、担当者に取り次ぐことができる。
	○	○				英語の履歴書を作成することができる。(書く)
テキスト・教材 参考図書	TOEICテスト完全攻略リーディングVol1、2、メガ模試TOEIC、Listening Box for TOEIC、TOEIC書き込みドリル 文法編650、はじめてのTOEIC模試、Vocabulary for Economics, Management, and International Business他					
	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	導入、夏休み明け復習テスト				
	2	TOEIC対策 リスニング(OL)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	3	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(品詞)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	4	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(代名詞)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	5	TOEIC対策 リスニング(OL)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	6	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(比較)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	7	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(形容詞)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	8	TOEIC対策 リスニング(OL)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	9	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(副詞)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	10	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(時制)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	11	TOEIC対策 リスニング(OL)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	12	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(態、コロケーション)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	13	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(不定詞、動名詞)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	14	中間テスト(TOEIC)①				
	15	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(接続詞)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	16	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(接続詞)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	17	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(前置詞)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	18	TOEIC対策 リスニング(OL)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	19	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(関係詞)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
	20	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(語法)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。	
21	TOEIC対策 リスニング(OL)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。		

授業計画	22	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(語法)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。また単語テストに向けた予習を行うこと。				
	23	TOEIC対策 Part5&Part6 文法(語法)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	24	TOEIC直前模擬試験 Q&A	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	25	TOEIC対策 Part7実践問題	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	26	TOEIC対策 Part7実践問題	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	27	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	28	TOEIC対策 Part7実践問題(解説)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	29	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	30	TOEIC対策 Part7実践問題	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	31	TOEIC対策 Part7実践問題(解説)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	32	中間テスト(TOEIC)②					
	33	TOEIC対策 Part7実践問題	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	34	TOEIC対策 Part7実践問題(解説)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	35	TOEIC対策 リスニング(OL)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	36	TOEIC対策 Part7実践問題	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	37	TOEIC対策 Part7実践問題(解説)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	38	TOEIC直前模擬試験 Q&A	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと。間違った箇所のやり直しを徹底的に行うこと。				
	39	Merry X'mas Entertainment					
	40	Cover letter & Resume	USBを持参すること				
	41	Cover letter & Resume	USBを持参すること				
	42	Cover letter & Resume	USBを持参すること				
	43	Cover letter & Resume	USBを持参すること				
	44	Cover letter & Resume	USBを持参すること				
	45	定期試験対策□学期総括					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)TOEICを中間(10月)、学期末に実施する。(12月実施) 評価方法は730点取得で100%、650点取得で95%、550点取得で90%とし以下も取得点数により評価に反映する。 (3)単語テストを複数回実施し、評価とする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC	◎	○				30%
	単語テスト	◎	○		○		5%
	Cver letter & Resume提出	◎	○				5%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定(2級)対策 I B					
科目名(英)	EIKEN Test/TOEIC Test Strategies I A					
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	岡本 彩 石田 小雪	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	岡本:大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)	
対象学科・学年	エアライン科1年					
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)
	○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、100文字程度の英文を書くことができる。(書く)
	○	○				事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)
	○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)
テキスト・教材 参考図書	英検過去問題集、TOEIC L&Rテスト公式問題集					
	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、リスニング、大問1				
	2	リスニング、大問1(短文の語句補充)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	リスニング、大問1(短文の語句補充)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	リスニング、大問1(短文の語句補充)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	リスニング、大問2(長文の語句補充)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	リスニング、大問2(長文の語句補充)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	リスニング、英作文対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	リスニング、英作文対策			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	リスニング対策、ポキャブラリー復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	英検本試験解説			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	英検本試験解説			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	リスニング、大問1(短文の語句補充)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	リスニング、大問1(短文の語句補充)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	リスニング、大問1(短文の語句補充)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	リスニング、大問2(長文の語句補充)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	リスニング、大問2(長文の語句補充)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	リスニング、大問2(長文の語句補充)			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	

授業計画	21	リスニング、大問2(長文の語句補充)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	22	リスニング、大問2(長文の語句補充)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	23	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	24	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	25	英検二次対策 スピーキング/英検筆記対策(過去問題)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	26	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	31	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	32	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	33	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	34	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	35	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	36	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	37	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	38	リスニング、大問3(長文の内容一致選択)	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	39	リスニング、英作文対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	40	リスニング、英作文対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	41	リスニング、英作文対策	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	42	英検2級模試筆記	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	43	英検2級模試リスニング、筆記解説①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	44	筆記解説②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	45	後期まとめおよび期末試験対策					
評価方法	(1)学内で英検を実施する。英検2級完全合格を90点、1次合格を85点、1次不合格のバンド1～3は80点～75点、バンド4～6は75点～70点、バンド7以下は65点とする。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	英語検定(準2級)対策 I B					
科目名(英)	EIKEN Test/TOEIC Test Strategies I B					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	野々村賢一	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	英語講師21年	
対象学科・学年	エアライン科1年					
授業概要	国際化および情報化社会において、英語による情報や考えを理解し要点をとらえることや、英語で発信することは大変重要である。この授業では、社会で必要とされる実践的英語力の養成と実用英語技能検定準2級合格、またTOEICスコア100点アップを目指す。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				説明、評論、物語、随筆などについて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(読む)
	○	○				社会性のある話題について自分の意見を簡潔にまとめて、60語程度の英文を書くことができる。(書く)
	○	○				電話や対面の会話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえることができる。(聞く)
	○	○				与えられた話題について即興で話したり、聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができる。また、短い文章を読んで、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえることができる。(話す)
テキスト・教材 参考図書	英語検定準2級過去問					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、大問1.2(語彙、短文の語句空所補充)、リスニング				
	2	英検対策 大問1.2(語彙、短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	3	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	4	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	5	英検対策 大問4(長文)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	6	英検対策 大問4(長文)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	7	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	8	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	9	英検模擬試験 問題1 筆記			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	10	英検模擬試験 問題1 リスニング 解答&解説			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	11	TOEIC 語彙、Part5、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	12	英検本試験解説 大問1			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	13	英検本試験解説 大問2			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	14	英検本試験解説 大問3			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	15	英検本試験解説 大問3			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	16	英検本試験解説 モデルライティング練習			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	17	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	18	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	19	TOEICテスト概要説明 TOEIC Part5			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	20	英検対策 大問1.2(語彙、短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	21	英検対策 大問1.2(語彙、短文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
22	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング			予習、復習を行って授業に臨むこと。		

	23	英検対策 大問3(長文の語句空所補充)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	24	英検対策 大問4(長文)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	25	英検対策 大問4(長文)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	26	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	27	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	28	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	29	英検対策 大問5(ライティング)、リスニング	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
	30	後期のまとめ	予習、復習を行って授業に臨むこと。				
評価方法	<p>(1)学内で英検を実施する。英検準2級完全合格を85点、1次合格を80点、1次不合格のバンド-1は75点、バンド-2は73点、バンド-3は70点、バンド-4は68点、バンド-5は65点、バンド-6は63点、バンド-7以下は60点とする。</p> <p>(2)定期試験(筆記)を実施する。</p> <p>(3)小テストを実施する。</p> <p>以上を下記の観点、割合で評価する。</p> <p>成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				40%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I B					
科目名(英)	General English I B					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	石志 正雄	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	外資系翻訳会社にて勤務	
対象学科・学年	エアライン科1年					
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。また、TOEIC Part5・7問題演習を通じ、品詞と5文型の知識を実践する。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解することができる。
	○	○				5文型を使い分けすることができる。
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。
	○	○				文法問題やTOEIC Part5への応用ができる。
テキスト・教材 参考図書	オリジナル学習プリント					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、品詞概要、文中での役割				
	2	自己紹介／5文型とは／第二文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	第三文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	第一文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	第四文型 導入			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	第五文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	第二文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	第三文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	第一文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	第四文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	第五文型 復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	五文型 確認テスト			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	TOEIC Part5 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	21	TOEIC Part6 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	22	TOEIC Part6 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	23	TOEIC Part6 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
24	TOEIC Part6 演習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと		

	25	TOEIC Part6 演習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	26	TOEIC Part7 演習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	TOEIC Part7 演習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	TOEIC Part7 演習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	TOEIC Part7 演習	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	期末テスト前復習	前回の復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	<p>(1) 定期試験(筆記)を実施する。 (2) 学内でTOEIC (IP) 検定試験を実施。 700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を70点以下とする。 (3) 小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S (90点以上)・A (80点以上)・B (70点以上)・C (60点以上)・D (59点以下)とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I B					
科目名(英)	General English I B					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	岡本 彩	
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	大学の研究センターにて海外の大学との連携業務(留学、シンポジウム等)	
対象学科・学年	エアライン科1年					
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解することができる。
	○	○				文型ごとの動詞を使って、文を作ることができる。
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。
	○	○				英語の時制を理解し、身の回りの出来事を表現できる。
テキスト・教材 参考図書	基礎からのジャンプアップノート英文法演習ドリル ステップアップ英文法基礎					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、前期の復習				
	2	前期の復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	前期の復習			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	態①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	態②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	態③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	態④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	態⑤			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	態⑥			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	態確認テスト			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	分詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	分詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	分詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	分詞④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	分詞確認テスト			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	不定詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	不定詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	不定詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	不定詞④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	不定詞⑤			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	21	不定詞確認テスト			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	22	動名詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	23	動名詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
24	動名詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと		

	25	動名詞確認テスト	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	26	検定問題にチャレンジ	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	検定問題にチャレンジ	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	検定問題にチャレンジ	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	検定問題にチャレンジ	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	前期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	<p>(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3)品詞テストを10回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	品詞テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I B					
科目名(英)	General English I B					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	野々村賢一	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	英語講師21年	
対象学科・学年	エアライン科1年					
授業概要	英語を単語でなくセンテンスで表現するためには、品詞と5文型の理解が必須である。英語を作るルール(英文法)の基本となる品詞と5文型を平易な切り口で学び直し、なぜそのルールとなるのかを理解する。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことにより、適切な英文を作成できるようになる。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				品詞の役割と英文構造を理解し、説明することができる。
	○	○				文型ごとの動詞を使って、文を作ることができる。
	○	○				正しい品詞と文型、また時制を使用し、単文、重文、複文を作ることができる。
	○	○				不定詞と動名詞を使い分けることができる。
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、前期復習				
	2	前期復習			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	3	句という塊:準動詞 不定詞の名詞的用法			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	4	不定詞の形容詞的用法・副詞用法			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	5	不定詞、3用法のまとめとその他の用法 英文解釈			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	6	不定詞のまとめのテスト			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	7	動名詞の説明①			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	8	動名詞の説明②			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	9	動名詞の実践練習 英文解釈			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	10	不定詞・動名詞まとめのテスト			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	11	分詞の説明①			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	12	分詞の説明②			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	13	分詞の実践練習 英文解釈			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	14	不定詞・動名詞・分詞のまとめのテスト			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	15	分詞構文の作り方と説明①			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	16	分詞構文の作り方と説明②			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	17	分詞構文の実践練習			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	18	準動詞 まとめのテスト			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
	19	関係代名詞とは?関係代名詞ができるまで①②③			予習、復習を行って授業に臨むこと。	
20	関係代名詞 練習問題			予習、復習を行って授業に臨むこと。		

	21	関係代名詞 英文解釈					予習、復習を行って授業に臨むこと。
	22	準動詞と関係詞のまとめのテスト					予習、復習を行って授業に臨むこと。
	23	関係副詞の説明					予習、復習を行って授業に臨むこと。
	24	関係代名詞と関係副詞の問題 非制限用法					予習、復習を行って授業に臨むこと。
	25	関係代名詞のwhat 複合関係代名詞					予習、復習を行って授業に臨むこと。
	26	複合関係副詞					予習、復習を行って授業に臨むこと。
	27	関係詞のまとめの問題					予習、復習を行って授業に臨むこと。
	28	これまでのまとめまとめ①					予習、復習を行って授業に臨むこと。
	29	これまでのまとめ②					予習、復習を行って授業に臨むこと。
	30	期末対策					予習、復習を行って授業に臨むこと。
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点以下、400点未満を点70点以下とする。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が30回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	総合英語 I B					
科目名(英)	General English I B					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	石田 小雪	
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	語学教育企業にて数か国のネイティブと勤務	
対象学科・学年	エアライン科1年					
授業概要	英語の基本となる品詞と5文型を正しく使用し、より複雑な英文を作成できるようになる。品詞確認テストと項目別の演習問題を解くことで、検定取得や会話力向上に必要な英語の運用能力を高める。					
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				英文読解に必要な基本的文法が理解できる。
	○	○				分詞、比較、態を使用した英文を作ることができる。
	○	○				関係詞、仮定法、分詞構文を使用した英文を作ることができる。
テキスト・教材 参考図書	英文法トレーニングノートα、英文法・作文トレーニングノートα、英文法トレーニングノートβ					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	クラス概要の説明、前期の復習（品詞、文型、不定詞と動名詞）				
	2	分詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	3	分詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	4	比較①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	5	比較②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	6	比較③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	7	比較④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	8	態①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	9	態②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	10	態③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	11	態④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	12	関係詞①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	13	関係詞②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	14	関係詞③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	15	関係詞④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	16	関係詞⑤			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	17	関係詞⑥			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	18	関係詞⑦			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	19	仮定法①			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	20	仮定法②			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	21	仮定法③			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	22	仮定法④			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
	23	仮定法⑤			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと	
24	仮定法⑥			前回の復習および予習を行って授業に臨むこと		

	25	分詞構文①	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	26	分詞構文②	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	27	分詞構文③	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	28	分詞構文④	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	29	分詞構文⑤	前回の復習および予習を行って授業に臨むこと				
	30	後期まとめ	前回までの復習を行って授業に臨むこと				
評価方法	<p>(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)学内でTOEIC (IP)を実施する。700点以上を100点、650点以上を95点、550点以上を90点、500点以上を85点、470点以上を80点、465点～405点を75点、400点未満を点70点とする。 (3)小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	TOEIC (IPテスト)	◎	○				20%
	小テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	Airline English I B						
科目名(英)	Airline English I B						
単位数	2	時間数	30	担当者	未定		
実施年度	2022	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	Airline 1						
授業概要	1. Raise students' English proficiency 2. Give students more confidence in using English 3. Workplace related English skills						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					Raise students' English proficiency	
	○					Give students more confidence in using English	
	○					Workplace related English skills	
テキスト・教材 参考図書	Speakout Elementary Book1						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Get to know your teacher				none	
	2	1.1 Nice to meet you				Preview lesson materials and review previous lesson	
	3	1.2 Travel Light				Preview lesson materials and review previous lesson	
	4	1.3 Can I Have a Coffee?				Preview lesson materials and review previous lesson	
	5	Teacher's Lseeon or 1.4 Fawly Towers (needs TV/DVD)				Preview lesson materials and review previous lesson	
	6	1.5 Lookback /teacher's lesson				Preview lesson materials and review previous lesson	
	7	2.1 Join Us				Preview lesson materials and review previous lesson	
	8	2.2 High Flyers				Preview lesson materials and review previous lesson	
	9	2.3 What Time Does It Start?				Preview lesson materials and review previous lesson	
	10	Teacher's Lesson or 2.4 Chalet Girl (needs TV / DVD)				Preview lesson materials and review previous lesson	
	11	2.5 Lookback / Teacher's lesson				Preview lesson materials and review previous lesson	
	12	3.1 Just Good Friends				Preview lesson materials and review previous lesson	
	13	3.2 Big Happy Families				Preview lesson materials and review previous lesson	
	14	Review and Practice for Speaking Test				Preview lesson materials and review previous lesson	
15	Speaking Test				Review previous lesson material		
評価方法	Students evaluation: (1) Test - 50% (2) Class participation - 25% (3) Attendance - 25 % The scoring scheme is: S (90 and above); A (80~89); B (70~79); C (60~69); D (59 and below)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験 Semester End Exam	○	○		○		50%
小テスト In-class Tasks	○	○		○		50%	
履修上の注意							

科目名	韓国語 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	盧 愛蓮		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科1年						
授業概要	韓国の言葉、読み書き習得を中心に就職活動に役立つよう実力を身につけさせると共に、最も近い隣国である韓国への理解や文化の違いなどを盛り込み、国際人としての識見も備わるよう指導する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					語彙力を増やし、それぞれの意味について説明することができる。	
		○	○			Listening力を鍛え、意味を理解し答えることができる。	
	○	○				基本の文法を理解し、小テストに合格することができる。	
	○	○				読解力を身に付け、単語や文章の意味を理解し説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	『基礎から学ぶ韓国語』						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	韓国語について					
	2	基礎 文字づくり①					
	3	基礎 文字づくり②					
	4	基礎 文字づくり③					
	5	基礎 文字づくり④					
	6	基礎 単語、仕組みの中のパッチムについて					
	7	基礎続き 文字慣れ 発音変化 その①					
	8	基礎続き 発音変化②					
	9	1課 挨拶、簡単な自己紹介①					
	10	1課 挨拶、簡単な自己紹介②					
	11	2課 疑問文①					
	12	2課 疑問文②					
	13	3課 否定文①					
	14	3課 否定文②					
	15	総まとめ 定期試験対策					
評価方法	1. 授業中に小テストを回実施する。 2. 実力に(抜きん出ている生徒等は授業の他に検定試験に向けての指導をする。過去問題等を解かせたり、先に進めて別テストを行う 3. 授業中に小テストを期末テストと合わせ、平常点として加算する。 4. 成績評価 S(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(50点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	小テストや授業態度	◎	○	○	○		50%
履修上の注意							

科目名	中国語 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	王 波		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科1年						
授業概要	中国語をマスターするための第一歩は発音です。ゆっくり時間をかけてピンインの発声を習得します。その次に、基本的な文法をふまえながら、できるだけ日常生活に合わせた常用語を数多く取り入れ、中国語の文章表現を修得し、応用できるよう学んでいきます。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					語彙力を増やし、それぞれの意味について説明することができる。	
	○	○	○			Listening力を鍛え、意味を理解し答えることができる。	
	○	○				基本の文法を理解し、小テストに合格することができる。	
	○	○				読解力を身に付け、単語や文章の意味を理解し説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	『中国語はじめての一步』						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	中国語入門 中国語の特徴及び習い方 自己紹介					
	2	自己紹介を復習して、ピンインの発声練習及び四声					
	3	単母音と子音をマスターして、四声を繰り返して、発音の特徴をつかむ					
	4	前回の復習 複合母音と四声のつけ場所 数字の練習					
	5	ピンインの発音チェックと発音練習					
	6	第1課 文法ポイント 是という判断文の文型					
	7	単語を読みながら、文法に基づいて会話する					
	8	文の解釈と応用プリント					
	9	小テスト 第2課 文法ポイント					
	10	指示代名詞と副詞と疑問詞					
	11	自分の苗字と出身地を中国語で言えるよう、人に聞けるよう					
	12	単語を読みながら、文法に基づいて会話する					
	13	一部の動詞を勉強して、更に会話の実力をアップする					
	14	復習プリント					
15	期末テスト範囲						
評価方法	1. 授業中に小テストを回実施する。 2. 授業中に小テストを期末テストと合わせ、平常点として加算する。 以上の観点から、成績評価 S(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(50点以下)をつける。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	小テストや授業態度	◎	○	○	○		50%
履修上の注意							

科目名	SPI I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	未定		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科1年						
授業概要	航空業界の各企業で実施をされるテストセンターやWEBテスト、ペーパーテストの対策として、SPIの頻出テーマの応用問題に取り組んでいく。この授業では、前期に学んだ解き方を活用して、制限時間内に正解を導き出す力を養う。また、WEBテストの四則逆算問題対策として、毎回ドリルに取り組む。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					前期に学んだ解き方を用いて、応用問題を解くことができる。	
	○					計算時間を短縮する工夫を学び、目標時間内に問題を解くことができる。	
	○					四則逆算の問題を制限時間内に、目標数解くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	教材：「最新最強のSPIクリア問題集」成美堂出版、オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	仕事算(基礎問題)			後期使用テキストで、SPIの主な問題範囲を確認しておくこと。(0.5時間)		
	2	仕事算(応用問題)、鶴亀算			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。(0.5時間)		
	3	損益算			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
	4	速さ・時間・距離			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
	5	場合の数			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
	6	集合			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
	7	前半まとめ			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
	8	第2回レベルチェック(クラス分け)テスト			試験範囲を復習しておくこと。(2時間)		
	9	割引料金と精算、確率(基礎問題)			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
	10	確率(応用問題)、分割払いと割合(基礎問題)			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
	11	分割払いと割合(応用問題)、推論①(順序)			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
	12	推論②(対応関係)、推論③(内訳)			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
	13	推論④(命題の正誤)、推論⑤(その他の問題)			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
	14	図表の読み取り			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
	15	後半まとめ			テキストプリントの当該範囲を事前に読んでおくこと。前回学んだ内容を自宅で復習しておくこと。(1時間)		
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)宿題を課す。 (3)中間テストとして、第2回レベルチェックテストを実施する。(4)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	中間テスト (第2回レベルチェックテスト)	◎	◎				40%
	出席回数・宿題・確認テスト等	○			◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	一般教養 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	未定		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科・1年						
授業概要	就職試験問題に対応できる基礎力を養成する。国語・数学・英語・社会における一般常識力を身に付け実際の企業の採用試験に解答できる能力の養成を目指す。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					漢字検定準2級程度の漢字までの読み書きができる	
	○					方程式・因数分解などの問題を理解し解答することができる	
	○					英検準2級程度の問題に解答することができる	
	○					日本をはじめとした主要国の地理や政治についての基礎的な内容を理解し説明ができる	
テキスト・教材 参考図書	「専門学校生のための一般常識トレーニング」 一ツ橋出版 第4版 2013年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	シラバス説明、第3回実力テスト				次回学習部分に目を通しておく(0.5時間)	
	2	ROUND11: 漢字の知識、国際組織、英単語の知識				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	3	ROUND12: 英文和訳、国税・地方税、漢字の知識、歴史				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	4	ROUND13: 四字熟語、社会保障制度、各国の貿易 ROUND14: 方程式、各国の歴史、英語(単・熟語の知識)				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	5	ROUND14: 社会(政治・経済) ROUND15: 漢字の知識、英語(単・熟語の知識、並べ替え)、国会				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	6	ROUND11~15 確認テスト				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	7	ROUND16: 漢字の知識、歴史、図形の面積・体積				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	8	ROUND17: 日本語・英語のことわざ				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	9	ROUND17: 歴史、英文和訳、文学史				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	10	ROUND18: 経済、名数、短歌・俳句				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	11	ROUND19: 漢字の知識、英単語の知識、人口の推移				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	12	ROUND20: 漢字の知識、英文補充、歴史				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	13	就職試験(WEBテスト)について				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
	14	WEBテスト問題演習				テキストの該当部分の復習(0.5時間)	
15	試験対策				試験範囲の部分の復習(1.5時間)		
評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト (3)出席状況 以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○		○		80%
	小テスト(筆記・2回)	◎	○		○		10%
	出席状況				○		10%
履修上の注意	特になし						

科目名	社会教養 I B					
科目名(英)						
単位数	4	時間数	60	担当者	未定	
実施年度	2022	実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	エアライン科1年生					
授業概要	① 東京研修振り返り発表会において、各グループで協力し合って資料を作成し、プレゼンテーションする。 ② 就職試験に向けた必要な準備の仕方を学び、期限内に必要な行動をとることができる。 ③ 求職票を提出し、求職票受付面接に合格することができる。 ④ 就職活動のための業界・職種研究に取り組み、情報収集の仕方について学び、実践することができる。					
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
		○		○		東京研修振り返り発表会にて、資料作成をし発表することができる。
				○		就職試験に向けた準備の仕方を理解し、必要な準備を期限内にすることができる。
		○		○		求職票を提出し、求職票受付面接に合格することができる。
			○	○		就職面接時の立ち居振る舞い、発言方法の基本を理解し、行動できる。
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	就職活動準備期の過ごし方/後期委員会決め				
	2	就職活動幹旋規定/求職票受付面接概要/自己PR作成			求職票の書き方を復習しておくこと。(1時間)	
	3	求職票の書き方/業界・職種への志望動機作成			求職票の下書きをすること。(1時間)	
	4	1・2年生交流会			質問内容を事前に準備すること。(1時間)	
	5	自己PR作成/求職票の書き方			自己PRとして活用できる自身のエピソードをまとめておくこと。(1時間)	
	6	東京研修振り返り発表会			各グループで事前準備をしておくこと。(1時間)	
	7	就職実務 — 求職票受付面接でよく聞かれる質問集を確認			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	8	就職実務 — 自己PRの作成(自己PRのメインテーマを考える)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	9	就職実務 — 自己PRの作成(テーマに合うエピソードを考える)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	10	就職実務 — 面接練習の受け方・入退室の確認			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	11	面接練習(1)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	12	面接練習(2)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	13	面接練習(3)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	14	面接練習(4)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	15	面接練習(5)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	16	面接練習(6)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	17	面接練習(7)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	18	面接練習(8)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	19	面接練習(9)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	20	面接練習(10)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	21	面接練習(11)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	22	面接練習(12)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	23	面接練習(13)			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	
	24	求職票受付面接			指導された点は練習を行い、次回までに改善させておくこと。(1時間)	

	25	企業採用担当者による模擬面接					
	26	就職実務 — 就職活動スケジュール、活動ルールの確認					
	27	就職実務 — 企業説明会の受け方、質問の仕方の確認					
	28	就職実務 — 求人票の見方、企業へのエントリーについて					
	29	就職実務 — 希望職種に合わせた準備の仕方					
	30	後期まとめ					
評価方法	(1)求職票受付面接の可否 (2)作文を提出する (3)就職関連の提出物を数回課す。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		○		40%
	求職票受付面接		○		○		40%
	作文				○		10%
履修上の注意							

科目名	就職実務						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15	担当者	未定		
実施年度	2022	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアライン科1年生						
授業概要	エントリーシート・履歴書作成時の注意点や対面・オンライン面接の受け方、WEBテスト受験などについて学ぶ。その後、受験を希望する業界、職種に応じて、書類作成準備や面接の指導を行っていく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					就職試験で必須となる面接テクニックが習得できる。	
	○					効果的なエントリーシートや履歴書が作成できる	
	○					筆記試験を突破するためにSPIや一般常識問題が解けるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート、履歴書添削)			受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	2	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート、履歴書添削)			受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	3	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート、履歴書添削)			受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	4	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート、履歴書添削)			受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	5	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート、履歴書添削)			受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	6	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート、履歴書添削)			受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	7	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート、履歴書添削)			受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	8	企業別の受験対策(面接練習、筆記試験対策、エントリーシート、履歴書添削)			受験希望の業界、企業、職種について調べ、準備をしておくこと。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物・発表				◎		100%
履修上の注意							